

☆15年目にはいる遊林会の活動

遊林会の活動には2つの面があります。①ボランティアによる里山保全活動と、②そのフィールドを利用した自然体験・環境学習の実施です。

昨年は、②の面でモリイコ！やディキャンプなどの新しい取り組みも実施し、かなりの評価を得ました。

一方、①は新しい方々の参加者が少なくなっていると危惧しています。これは、活動の主力となる定年後の団塊の世代を取り込めていないことが原因のように考えています。15年目の遊林会活動、新しい仲間を増やすことを最大の方針としたいと思っています。



シカ肉の炭火焼き

☆作業日あれこれ

午後からの忘年会を兼ねた12月の作業日の朝は今シーズン1番の冷え込みでしたが、日中は晴れて穏やかな天候となりました。

リョウマは氷点下を切ったこの朝の冷え込みを観察会に取り入れました。動物は餌が少なく気温の低い冬をどのように乗り切るかというテーマです。多くの昆虫のように卵や幼虫でやり過ごすという方法もありますが、テーマは夏を過ごした個体がどのように生きて冬を乗り切るかということです。

まず冬になる前に食べ貯めてエネルギーになる脂肪を体に蓄えるタヌキやクマなどのやり方です。その結果、タヌキなどは冬の初めには体重が1.5倍になるそうです。次に防寒具を身に着ける冬毛(羽)になる方法です。身近な例にも冬には長い毛の下に短くて柔らかい綿毛のようにふんわりした下毛を増やし、春になると大量に毛が抜けて夏向きの毛皮になる寒いところに適した種類がいます。柴犬や秋田犬もこの仲間です。3番目の方法は滋賀で冬を過ごすことになったリョウマの理想形、こたつに入ったまま過ごす冬眠です。冬眠とは体温を下げて動かず命を維持するのに必要なエネルギー消費量を少なくする方法です。昆虫やヘビやカエルなどの変温動物にとっては外気温と共に体温が下がり簡単なことですが、哺乳類

(ヤマネやリス)にとっては高度な冬の過ごし方です。クマの場合は、体温は30度位までしか下がらずヤマネの0～5度と比較すれば高いのですが、基礎代謝量が低くなっていることが確認でき、正式に冬眠と見なされるようになったとのことです。4番目の冬の過ごし方は、リョウマの夢、南



保護者に教えてあげます

国のリゾート地に移動する方法です。こいつは羽のある鳥の得意とするところですが、日本では渡り鳥には冬を過ごすために北からやって来る冬鳥と、夏の間に繁殖のためにやって来て冬には遠くはスロウなどまで移動する夏鳥がいます。この森の冬鳥はジョウビタビ、アトリ、ツグミ、シロハラなど、夏鳥では渡りの途中に立ち寄るホトトギス、カッコウ、キバタビ、コムドリなどがいます。最後は草原広場に出て冬鳥を観察しようとしたのですがフィールド・スコープでは捉えられず、ヨコヅナサシガメ(カメシの仲間)が樹皮の襷に入り込んで集団越冬をしている様子(正確には幼虫であり、夏を過ごした個体が冬越しをしているわけではありません)の観察になりました。

この日の作業は午前中だけ、12時きっかりに餅つきで忘年会が始まるのでそれまでに作業を終える必要があります。この季節らしい作業は落葉掻きと草原広場のススキやヤマト、オシロイなどの機械刈りです。落葉を掻いて囲いの中に放り込み、いつもですと柵の中では飛ぶ鳥たちがトラップのように飛び回って落葉を転圧してくれるのですが、この日は地域の行事などと重なり一人だけで気分が乗らなかったようです。第2駐車場近くの竹林では竹の間伐作業が実施されていました。昼食は餅つきと鍋の準備です。番外として前日差入れされたシカの脚を焼鳥名人がC. W. ニル氏直伝の方法で解体作業中です。名人によれば肝の解体は農氏が教えたということです。解体しスライスしたシカ肉は念のために湯通しをして味噌だれで焼き肉、酒のあてとして絶品でありました。いつものように餅つきで始まった忘年会ですが、途中でたまたま通りかかった琵琶湖博物館の観察会のメンバーを誘い込んで盛り上がってしまいました。河辺の森のクマは翌日、謹慎の身となりました。

1月の作業日は

1月25日(水曜日) 週日活動 森の居酒屋は1月11日 午後7時頃～

1月14日(第2土曜日)9時～(遅刻可)

主 催 者 : 遊 林 会

連絡先(遊林会事務局): 滋賀県 東近江市 河辺いきものの森 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210

URL: <http://www.yurinkai.org/>

E-mail: ikimono@e-omi.ne.jp

森のブログは「かわべえブログ」で検索!

水曜の作業は本年最後の作業日となりました。いつもの第4水曜では年末過ぎるため、今回は第3水曜の21日に実施。木ままクラブで作業をしてきたヤマキ広場のクサノ伐採の続きです。

もともとこの区域は樹林地に竹が攻め入っていたところで、10年以上前から竹を切り続けてきました。その後、高木のクサノから落ちたクサノが実生となって成長したり、先駆種と言われる成長の速い樹種（アカガシやウルシの仲間、センダン、そしてクサノ）がどんどん成長してきたりしましたが、この区域の作業の優先は竹やクサノの刈り取り。クサノなどはいつでも切れるから…と思いつつ数年が過ぎ、気付けば一抱えほどもある大木のクサノやセンダンが増えてきました。そこで、今シーズン思い切ってこれらを伐採していくことにしたのです。クサノは成長が速く年輪は効効、楽に切れるのですが、その分鋭いトゲがあり、全員革手袋を着用しての作業です。これにアツツラジなどのツガがからまっているとさらに作業が困難に。木ままクラブの2回を含めて今回で3回目の作業ですが、全部を切ることはできませんでした。残りの作業は新年に持ち越しです。

この日のお昼は本年最後ということで、お刺身をはじめ、お蕎麦のたいたん、風呂吹き大根、白菜と豚肉の重ね煮、かき卵汁など豪華でした。今年一年、みなさんお疲れ様でした！

★12月の木ままクラブ

気軽に気ままに木曜日に活動する木ままクラブ。12月は2回の活動を行いました。

12/1 10人 ヤマキ広場でクサノやセンダンの伐採などを中心に、午前・午後かかりっきりで実施してもらいました。クサノはまだまだあります…

12/15 前回に引き続きクサノ等の伐採です。トゲが鋭い上にかなりの大木があり重労働です。

1月は19日が活動日です

★河辺いきものの森スタッフルーム情報

今年も終わり。相変わらずの忙しい年でしたが、毎年どんどん忙しくなっていく河辺いきものの森です。既存の事業である学校の環境学習の対応、県の森林環境学習「やまのこ」、市の「やまの子キャンプ」、そして春・GW・夏・冬休みなどの主催イベント。今年はそれらに加えてデイキャンプやモリイコ！を実施しました。

今年特に力を入れたのがモリイコ！です。年間土日の約6割がモリイコ！というこれまでにないくらいの過密スケジュールとなりました。年間同じ子どもたちを森で活動させるというのはずっとしたかったことで、今回、緊急雇用制度を活かしてその念願がかなうこととなりました。子どもたちも保護者の方にもとても人気の活動で、是非続けてして欲しい！という要望がたく

さんあり、好評です。しかし、この事業の問題点は人件費にあります。緊急雇用が終わればこの事業は終了というわけにもいきません。参加者からの費用負担だけでは人を雇えるだけの額には達しません。企業等の補助金なども受けられるかどうかはわかりませんし、恒久的にもらえるわけでもありません。NPOの寄付金優遇制度などありそうですが…色々調べたり動きはじめないといけません。

★モリイコ！の子どもたち

モリイコ！の第7回目の活動では、たき火でご飯を作りました。今回のメニューは五平餅と豚汁です！包丁で材料を切るところから始め、前回に引き続きたき火を付け、ご飯をつぶして作った五平餅を焼いていきました。五平餅を初めて知ったという子や、豚汁に嫌いな具が入っているという子もいましたが、自分たちで作ったご飯はやはり特別なのか、みんなおかわりもしてたくさん食べてくれました！

12/18にはワグシオン活動の「あかねずみの日」を行いました。今回は「きみが隊長だ！」というタイトルで、モリイコ！の子どもたちが隊長となり保護者を案内するという活動です。子ども隊長達はスタッフから案内ポイントのレクチャーを受け、地図と、案内ポイントのヒントが書いてある「ヒミツの隊長メモ」を持って森を案内しました。子どもたちに大人気の森のスーパーボールの正体（ジャリグの実）を教えたり、ヨヅナサガメが集まっている木を見たり、ヤブツグミのにおいをかいでもらいました。

午後は保護者の前でたき火に挑戦してもらいました。森にたきぎ拾いに行き、マッチから火を付けます。保護者の方に子ども隊長達が指示を出してうちわであおいだり、枝を足して大きな火にしていきました。もう3回目ともなるたき火なので、子ども隊長達は上手に付けていきました。たき火が点いたらこれも以前に作った竹串を削り、子ども隊長達のナイフの腕前を保護者に披露してもらいました。最後はみんな大好きな焼きマッシュロを食べて楽しんでもらいました。

親子で夜の森を探検する活動はありましたが、今回のように子どもが今までの活動の成果を見せる内容は初めてだったので、保護者の方も楽しんでもらえたと思います！

★1月の作業は…

落ち葉かきや下刈りなどを中心に、冬の森は作業に好適です。1月は恒例のぜんざいもありますよ！

容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします！

発行者：東近江市建部北町 河辺いきものの森センター内 遊林会 世話役 武藤精蔵 Tel 0748-20-5211

この用紙にはkikitoペーパーを使っており、滋賀県湖東地域の森の保全に寄与しています